

創業75周年を迎えた 「株式会社若尾綜合舞台」

株式会社若尾綜合舞台 梅村 真吾

名古屋市に拠点を置く「株式会社若尾綜合舞台」が、創業75周年を迎えました。

これを記念して、同社取締役で協会理事の梅村真吾氏に、社の歴史を寄稿して頂きましたが、その前に、創業者である故・若尾正也氏(1914~1994)について簡単にご紹介したいと思います。

実は、若尾正也氏が亡くなられた後、奥様の隆子氏が、正也氏の日記や書簡、折々に書かれた文章や写真をまとめて『一本の金線』という著作を出版(2001年)なさっています。

それによりますと、正也氏は意外なことに活動の拠点であった名古屋市ではなく横浜市の出身。早稲田大学理工学部電気工学科を卒業、1938年に東宝に入社し、東京宝塚劇場電機部に所属します。43年からは名古屋宝塚劇場(名宝劇場)に所属。二度の応召を受けた後に復員、同劇場に戻ります。



同(1942年8月 自宅)

ここにいたのが、名古屋の新劇運動のリーダー的存在だった松原英治氏でした。名宝劇場の5階に新たにできた名宝文化劇場を舞台に、正也氏は松原氏の片腕として新劇運動や組合運動に没頭することになります。

1948年には、かの東宝争議が起こり、レッドパージの嵐の中で正也氏は東宝を退社。一方で新劇運動は全国的に盛り上がり、名古屋でもたくさんの地元劇団が生まれます。その一つが松原氏が主唱した名古屋演劇集団(略称・劇団演集)で、正也氏は演出部スタッフとして活躍します。新劇運動が社会や世相の変化とともに浮き沈みを繰り返す中で、劇団演集は順調に活動を継続。正也氏は演出家として宮本研の『人を喰った話』や木下順二の『風浪』(再演)などの作品を手がけます。

当時の劇団のことですから、大道具、照明、音響といった技術スタッフの仕事も劇団員がやるが多かったと思います。ただ正也氏は宝塚劇場で働いていたわけですから、プロのスタッフの必要



若尾隆子氏と正也氏
(1989年 朝日新聞社で)

性や有用性ということに早くから気づいていたのかもしれませんが。それが技術スタッフ会社「若尾総合舞台」を創設する発想の元となったことと思います。

役者とスタッフについての正也氏の言葉を引きます。

「演劇に携わる人は、みんないい人です。役者のセリフ一つ一つでも、息を合わせてやらなければ、生きた舞台のやりとりはできず、迫力ある演劇とはなりません。役者だけではありません。緞帳の綱を握る舞台監督も、一秒の差で、舞台を生かすか、殺すか、真剣になって舞台の動きを見守っています。照明のきっかけ一つでも舞台に影響します。舞台装置に故障があつては、舞台全体の命とりになるからです。みんな協調し合つて、素晴らしい舞台を提供することによって、拍手を迎えることができるのです」(『一本の金線』P.285)

こうした考えを本当に信念として持っていた、気骨のある人だったのだろうとその姿を想像します。

若尾正也氏が創られた「株式会社若尾総合舞台」の皆さま、改めまして創業75周年おめでとうございませう。(編集部)

■社の方針

若尾総合舞台は、創業以来中部地域を中心に、個人の暮らしに重要な力となる「劇的な感動」をもたらす業務を遂行してまいりました。

舞台芸術創造・イベント創造・放送創造等、さまざまな分野から「創造」活動を支える「技術」を提供することを誇りとし、お客様の期待を絶えず上回る「技術」と「サービス」の提供を通じてさらなる成長を目指します。

■今後の展望

「創造」は日々進化しています。

変化する「創造の場」に対応する為、技術の進化を常に取り入れ、「感動の創造」を支えるスタッフとして、創造者の想いを第一に総合的にサポートしてまいります。

私たちのスタッフワークが、皆様一人ひとりの快適な未来へつながっていく、その強い想いを持ってこれからも日々あらゆる事業に邁進していく所存です。

■沿革

- 1949年・若尾正也照明研究所 創業
照明課、美術課発足
- 1956年・中部日本放送(現CBCテレビ)に照明スタッフが常駐
- 1959年・有限会社若尾総合舞台研究所 組織変更(中区栄2丁目)
- 1970年・大阪万博 エキスポホールに照明スタッフとして参加
- 1973年・千種区大島町に移転
・(社)日本照明家協会結成 若尾正也 理事就任
- 1974年・音響課 発足
- 1975年・全国舞台テレビ照明事業協同組合 結成 若尾正也 副理事長就任
- 1982年・名古屋市文化振進事業団 設立 若尾正也 理事就任
- 1983年・代表取締役役に松本吉正、代表取締役会長に若尾正也 就任
- 1984年・千種区今池に移転
・日本照明家協会より感謝状拝受

- 1986年・全国舞台テレビ照明事業協同組合より功労賞 受賞
 ・日本芸能実演家団体協議会より昭和61年度芸能功労賞 受賞
- 1987年・スピーカー Electro-Voice MT-4 導入(国内初導入機種)
 ・若尾正也 日本照明家協会副会長就任
- 1988年・愛知県舞台運営事業協同組合(愛舞協)が発足し加盟
 ・名古屋市より昭和62年度名古屋市芸術特賞 受賞
- 1989年・株式会社若尾綜合舞台 商号変更
 代表取締役役に松本吉正 取締役会長に若尾正也 就任
 ・世界デザイン博 照明スタッフとして参加
- 1993年・劇場部 発足
- 1998年・代表取締役役に松原重光 就任
 ・映像課 発足
- 2000年・スピーカー EAW KF-750導入(国内初導入機種)
- 2002年・デジタルミキサー YAMAHA PM1D 導入
- 2004年・営業部営業課 発足
 ・代表取締役に兎玉道久 就任
 ・愛知 日本万国博覧会にスタッフとして参加
- 2008年・意匠課 発足
- 2009年・創業60周年
- 2010年・名古屋開府400年 音響スタッフとして参加
 ・あいちトリエンナーレ2010開幕 テクニカル・コーディネーター、オペレーターとして参加
- 2011年・COP10 生物多様性条約締約国会議 進行として参加
- 2012年・制作技術課 発足
- 2015年・営業部制作課 発足
- 2018年・代表取締役に古川靖 就任
- 2022年・デジタルミキサー YAMAHA PM5導入
- 2024年・スピーカー L-Acoustics KARA II 導入
 ・創業75周年